



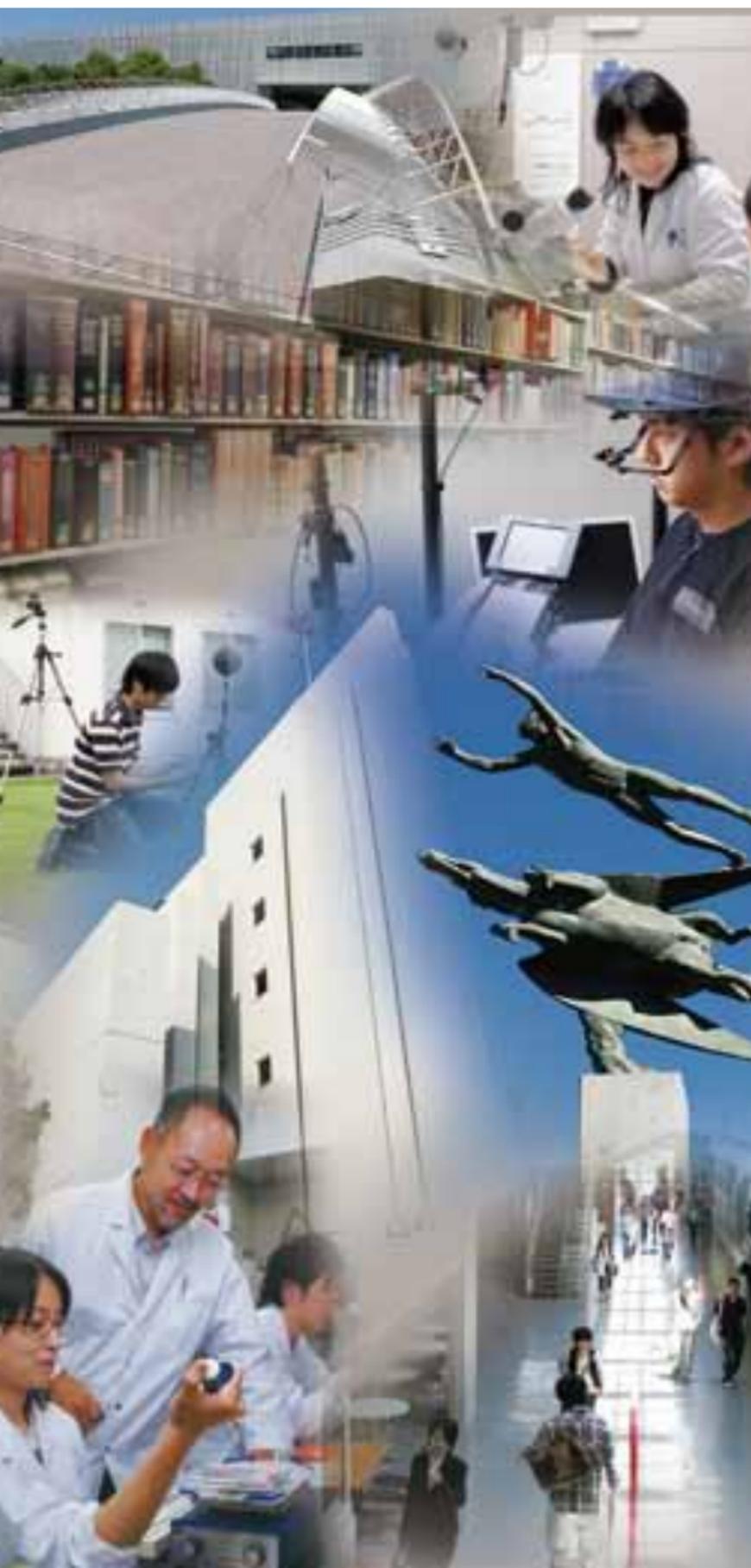
早稲田大学 大学院

人間科学研究科

Waseda University Graduate School of Human Sciences

2018

修士課程2年制／修士課程1年制／博士後期課程



Waseda University Graduate School of Human Sciences 「人間」に関する総合知の構築をめざす

修士課程1年制 履修方法

1. 修士課程1年制を修了するためには、通常1年以上2年以内在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたいう、課題研究論文の審査および試験に合格しなければなりません。合格者には「修士(実践人間科学)」の学位が授与されます。
2. 前項の30単位は、次のように履修します。

必修/選択	科目区分	科目の説明	修了必要単位数	
必修	研究指導	所属する研究指導	1年分合格(単位なし)	
	課題研究論文		合格(単位なし)	
	専門ゼミ(必修)	所属する研究指導の専門ゼミ(1)A-B	4	
	専門ゼミ(選択)	所属する研究指導以外の専門ゼミ(1)A-B	0以上	
	専門科目	専門科目A群	教育臨床コース設置科目から選択	2以上
			(必修) 心理教育臨床実習A-B 心理臨床事例実習A-B	4
専門科目B群		(選択必修) 必修以外の教育臨床コース設置科目から選択	2以上	
選択	修士課程(2年制)設置科目	修士課程(2年制)設置科目のうち選択科目から選択	0以上	
	他箇所設置科目	指導教員の許可を得て履修可能	0以上	
修了必要総単位数			30以上	

入学金・学費

2017年度入学者1年次(ご参考) (単位:円)

課程	納入期	学費			諸会費	合計
		入学金	授業料	実験演習料	学生健康増進互助会費	
修士課程(2年制)臨床心理学研究領域	入学時	200,000	450,500	45,000	1,500	697,000
	秋学期	—	450,500	45,000	1,500	497,000
	計	200,000	901,000	90,000	3,000	1,194,000
修士課程(2年制)臨床心理学研究領域以外	入学時	200,000	450,500	35,000	1,500	687,000
	秋学期	—	450,500	35,000	1,500	487,000
	計	200,000	901,000	70,000	3,000	1,174,000
修士課程(1年制)	入学時	200,000	603,000	35,000	1,500	839,500
	秋学期	—	603,000	35,000	1,500	639,500
	計	200,000	1,206,000	70,000	3,000	1,479,000
博士後期課程	入学時	200,000	328,500	35,000	1,500	565,000
	秋学期	—	328,500	35,000	1,500	365,000
	計	200,000	657,000	70,000	3,000	930,000

※2018年度の学費・諸会費は改定されることがあります。
 ※当学の学部・大学院、専攻科の在学学生、卒業生、修了生、または退学者が入学する場合、入学金が免除されます。

奨学金

当学には、各種奨学金制度があります。
 詳細は、奨学課のWebサイトをご覧ください。

- 早稲田大学学生部奨学課
<https://www.waseda.jp/inst/scholarship/>

学生の声



飯島 有哉 さん
 2016年4月から
 修士課程2年制に進学
 臨床心理学研究領域

入学後の研究内容・研究室の雰囲気について

学校カウンセリング学研究指導(指導教員名:桂川 泰典 准教授)
 学部時代に学んだ臨床心理学の知識と、教職課程やボランティア活動で学校教育に携わった経験を活かし、学校現場での心理的支援の専門家になりたいと考え学校カウンセリング学を専攻しました。現在は、児童生徒と教師の関係性の視点から、子どもと先生の双方がより心理的に健康で過ごせる学校生活の実現を目指し研究を行っています。研究室ではそれぞれの個性が尊重され、先生は1人ひとりに合った丁寧な指導をして下さいます。時に助け合い、刺激しあい、日々仲間たちと実習や研究に取り組んでいます。

人間科学研究科の修士課程に進学して良かったと思うこと

人間科学研究科には様々な領域を専攻する優秀な学生が集まっています。同じ研究領域の学生とは、とことんその領域について深めることができます。また、他領域の学生と関わることで、自身の研究や専攻する学問のものを客観的に見る視点を得られ、新たな気づきが生まれます。社会人経験を持つ学生も多く、日々視野が広がっていく実感があります。緑豊かな風景と、多様性に富んだ知に囲まれた所沢キャンパスで得られる可能性は無限大です。

博士後期課程に進む理由・博士後期課程の魅力など

私は、修士課程を人間科学研究科で過ごしました。人間科学研究科は、様々な学問領域が混在する学際的な研究科です。そのため、分野の違う先生方や先輩方、同期たちと議論を交わす中で、多角的な観点からの新たな発見や気づきがたくさんありました。人間科学研究科の魅力は、1つの分野にとどまらない自由な研究ができることにあると思います。その環境を経て、修士課程での研究をより深めたいと考えるようになり、博士後期課程への進学を決めました。



友野 貴之 さん
 2016年4月から
 博士後期課程に進学
 感性認知情報システム研究領域

入学後の研究内容

生態心理学研究指導(指導教員名:三嶋 博之教授)

人混みの中を歩いたり、狭い道を自動車を通り抜けたり、生活環境には様々な「すき間」が存在し、私たちはそれを安全に通らなければなりません。私は現在、人間が障害物にぶつかることなく、その間隙を巧みに通るために必要な知覚・行為の働きを、実験心理学的な方法によって明らかにするための研究を行っています。所属する研究室で指導して下さる先生は間隙通過の研究に精通されていて、博士号の取得に向けた活動に最適な環境が整っています。この研究から得られた成果を、社会や学問の発展のために役立てていくのが目標です。

Information

臨床心理士養成のための 一種指定大学院に指定されています

公認心理師資格対応カリキュラムも整備中

当研究科は(財)日本臨床心理士資格認定協会より一種指定大学院として認定を受けています。所定科目を履修し修了することで「臨床心理士」の受験資格を得ることができます。一方、心理分野で初の国家資格である「公認心理師」も誕生しました。人間科学研究科では人間科学部とともに、「公認心理師」の受験資格を取得できるカリキュラムの整備をすすめています。詳細は当研究科ウェブサイトですべて発信していきます。

修士課程1年制「教育臨床コース」

Education, Clinical Psychology Course [One-year Master's Course]

多角的な視野を包括した 教育臨床の方法論を探究する

教育臨床における総合的・科学的な視野をもった実践的方法論を習得します。児童・生徒の立場に立脚し、集団生活の基盤である学級での教育法を習得するとともに、個々の多様性や個性を重視した指導方法等に関わる知識・方法論を習得し、近接領域での応用も可能にします。また現役職業人の勉学・職業の両立を可能とする勉学機会の拡大を考慮しながら社会人の育成をめざします。

教育の特徴

- ① 実証的実践研究を重視
- ② ゼミ形式による少人数授業を重視
- ③ 所沢並木校舎を中心に平日夜間(18時以降)・土曜に開講
- ④ 一部の講義にオンデマンドを活用

取得可能な資格

修了要件に加え、一定の資格要件に定められた講義および実習の単位を修得することによって、次の資格試験の受験資格が取得可能です。

- (1)学校心理士資格 (2)臨床発達心理士資格

※毎年度、資格認定運営機構のシラバス審査を経て、受験可能となります。



知能検査実習のイメージ

研究指導名	資格	担当教員名	修士
臨床認知発達学	特任教授	井原 成男	●
学校臨床心理学	准教授	大月 友	●

「×」は募集しない、「-」は担当なしを示し、2018年度入試では募集しません。記載の内容は2017年4月1日時点の情報であり、変更が生じる場合があります。

修士課程2年制 履修方法

1. 修士課程2年制を修了するためには、通常2年以上4年以内在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および試験に合格しなければなりません。合格者には「修士(人間科学)」の学位が授与されます。
2. 前項の30単位は、次のように履修します。

必修/選択	科目区分	科目の説明	修了必要単位数
必修	研究指導		2年分合格(単位なし)
	修士論文		合格(単位なし)
	専門ゼミ(必修)	所属する研究指導の専門ゼミ (1)A・B、(2)A・B	8
選択	専門ゼミ(選択)	所属する研究指導の専門ゼミ (1)C・D(重複履修) 所属する研究指導以外の専門ゼミ (1)A・B	0以上
		所属する研究指導の専門ゼミ (1)C・D(重複履修) 所属する研究指導以外の専門ゼミ (1)A・B	0以上
	専門科目	専門科目A群	2以上
		専門科目B群	2以上
	人間科学科目	プロジェクト科目	1以上
		リテラシー科目(英語)	TOEFL(TOEFL-ITP含む)、 またはTOEIC(TOEIC-IP含む)、または WeTECのスコア(2年以内)が必要。 スコアにより履修クラスが異なる。
リテラシー科目(基礎)		0以上	
他箇所設置科目	指導教員の許可を得て履修可能	0以上	
修了必要総単位数			30以上

※ 専門ゼミ(選択)、専門科目、人間科学科目を合わせて、12単位以上履修しなければならない。

フルオンデマンド授業(他箇所設置科目を含む)の修了要件単位数への算入は、**原則15単位まで**と上限が定められています(通学制修了要件単位数の1/2まで)。そのため、15単位を超えるフルオンデマンド科目の履修登録の際は、**事前に担当指導教員と十分に相談してください。**

博士後期課程 履修方法

1. 博士後期課程を修了するためには、3年以上6年以内在学し、論文作成のために必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および試験に合格しなければなりません。合格者に「博士(人間科学)」の学位が授与されます。
2. 授業科目について必要な単位はありませんが、指導教員の指示により、修士課程の授業科目を履修しなければならない場合があります。

人間の「感性」を科学的に探究し 現代社会の諸問題に挑む

状況を感じとり、予期し、ひらめくこと。創造し、表現して、伝え、共感すること。これら人間の「感性」は、人間がきわめて人間らしくあることと関わる本質的な特性です。当研究領域では、認知科学、心理学、情報科学、システム工学、人間工学、生体工学という人間諸科学を基盤として、「感性を備える人間」のスケールで現代の諸問題にアプローチし、その背後にある自然法則の解明と利用、および感性に働きかけるシステムや心に響くプロダクトのデザインなど応用展開に挑戦します。

主な進路

マイクロソフト、NTTデータ、セイコーエプソン、コナミデジタルエンタテインメント、メタルワン、自動車事故対策機構、滋賀県警科学捜査研究所、国立特別支援教育総合研究所、産業技術総合研究所、職業能力開発大学校、ファーストリテイリング、本田技研工業



脳波に対する周波数成分分析/生理的指標の計測例

研究指導名	資格	担当教員名	修士	博士
生活人間工学	准教授	加藤 麻樹	●	—
言語情報科学	教授	菊池 英明	●	○
加齢人間工学	教授	倉片 憲治	●	○
感性認知科学	教授	齋藤 美穂	●	○
日常記憶心理学	准教授	杉森 絵里子	●	—
心理行動学	教授	鈴木 晶夫	●	×
福祉工学	教授	藤本 浩志	●	○
知識情報科学	教授	松居 辰則	●	○
生態心理学	教授	三嶋 博之	●	○
社会的実践認知科学	教授	宮崎 清孝	●	—
人間生体機能動態学	教授	宮崎 正己	●	—
生体情報工学	准教授	百瀬 桂子	●	○

「×」は募集しない、「—」は担当なしを示し、2018年度入試では募集しません。
記載の内容は2017年4月1日時点の情報であり、変更が生じる場合があります。

人間中心の社会とシステム開発を 学際的アプローチで追究する

学際的な視点に立ち、教育やコミュニケーション、情報科学を融合して、高度情報化社会における人間の営みと情報行動について探究します。多様性を尊重しながら、快適さを追求する人間中心のシステムと社会の在り方を、国際的な視野から多面的に研究するとともに、従来の研究分野にとらわれず、文理融合・理工連携を図り、人間社会にとって有用なシステム開発研究を行い、体系的な国際的水準の研究・教育能力を有する人材を育成します。

主な進路

日本テレビ放送網、フジテレビジョン、Google、楽天、富士通ラーニングメディア、日本アルコン、駿河台学園(駿台予備学校)、日本郵便、東京藝術大学、ソニー、みずほ情報総研、NTTデータ、大学教員



LEGOを利用したTwitter利用者の反応測定に関する実験の様子

研究指導名	資格	担当教員名	修士	博士
教育実践学	教授	浅田 匡	●	—
教育システム開発論	教授	井上 典之	●	○
学習環境デザイン論	准教授	尾澤 重知	●	○
情報コミュニケーション科学	教授	金子 孝夫	●	○
ネットワーク情報システム学	教授	金 群	●	○
インタラクショナルデザイン論	教授	向後 千春	●	○
情報コミュニケーション技術論	教授	スコット ダグラス	●	—
教育情報工学	教授	永岡 慶三	×	×
インターネット科学	教授	西村 昭治	●	○
教育コミュニケーション学	教授	保崎 則雄	●	○
情報メディア教育論	准教授	森田 裕介	●	○
教育情報メディア工学	教授	永岡 慶三 (専攻担当者)	●	○
	准教授	森田 裕介	●	○

INFORMATION

入学試験日程

入試区分	出願期間	1次選考(書類審査) 合格発表日	2次選考		最終合格発表日
			選考日	試験科目	
修士課程2年制	推薦 2017年 4月17日(月) ～ 4月21日(金) 【郵送:消印有効】	2017年 5月12日(金)	2017年 5月20日(土)	面接	2017年 5月26日(金)
	一般 (社会人、 外国学生含む) 2017年 8月21日(月) ～ 8月25日(金) 【郵送:消印有効】	2017年 9月15日(金)	2017年 10月14日(土)	専門科目 英語 面接	2017年 10月20日(金)
修士課程1年制	社会人 (外国学生含む) 2017年 8月21日(月) ～ 8月25日(金) 【郵送:消印有効】	2017年 9月15日(金)	2017年 10月7日(土)	小論文 面接	2017年 10月20日(金)
博士後期課程	推薦 (夏季) 2017年 8月21日(月) ～ 8月25日(金) 【郵送:消印有効】	—	2017年 10月7日(土)	面接	2017年 10月20日(金)
	一般 (社会人、 外国学生含む)	2017年 9月15日(金)	2017年 10月7日(土)	英語 面接	2017年 10月20日(金)
	推薦 (冬季) 2018年 1月9日(火) ～ 1月12日(金) 【郵送:消印有効】	—	2018年 1月20日(土)	面接	2018年 2月15日(木)
科目等履修生 (外国学生含む)	2018年 2月2日(金) ～ 2月9日(金) 【郵送:消印有効】	—	2018年 3月3日(土)	面接	2018年 3月5日(月)

※当研究科では入学後のミスマッチを防ぐために、出願前にご自身の希望する研究指導の担当教員とコンタクトを取り、担当教員とご自身の考えている研究内容などを十分に相談のうえで出願することを強く推奨しています。可能な限り、担当教員と事前の連絡を取るよう努めてください。ただし、連絡が取れなかった場合でも出願は認めます。教員との連絡方法は、Webサイト上に公開する入試要項をご確認ください。

※修士課程2年制臨床心理学研究領域や修士課程1年制教育臨床コースに出願する際には、各自が希望する教員の臨床心理学説明会に必ずご出席のうえ、説明を受けてください。説明会の日時など詳細については入試要項とともにWebサイトで公開します。

交通案内



所沢キャンパス ○西武池袋線 小手指駅下車
小手指駅より学バス[無料](20分)

所沢並木校舎 ○西武新宿線 航空公園駅より西武バス
「所沢駅東口行」
「エステシティ所沢行」
「並木通り団地行」のいずれかで
約5分、「秩父学園入り口」下車

早稲田キャンパス ○JR 山手線 高田馬場駅下車(徒歩20分)
○西武新宿線 高田馬場駅下車(徒歩20分)
○東京メトロ東西線 早稲田駅下車(徒歩5分)

●お問い合わせ先

早稲田大学 所沢総合事務センター

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

Tel.04-2947-6855

E-mail human-enter@list.waseda.jp

<https://www.waseda.jp/fhum/ghum/>

※上記URLより入学試験要項を確認することができます。



Our Vision

「人間」を基点とする 複合的・横断的アプローチで 地球社会の課題解決に挑みます

早稲田大学 大学院

人間科学研究科

Graduate School of Human Sciences

人間を中心においた総合科学を形成することで科学技術の飛躍的な進歩のなかで失われた人間性を回復し人間と環境の調和や心身の健康の維持増進、感性やコミュニケーションの探究を通して生活の質の向上に貢献すること。それが、早稲田大学大学院人間科学研究科が掲げる使命です。

そのため相互に連携する8つの研究フィールドと1つのコースを設け人文・社会・自然科学をまたぐ複眼的な視点から現代社会の諸問題に斬り込む体制を築いています。

大学院としての人間科学は世界的にも希少な先端領域です。その先進性と早稲田大学の総合性・独創性を生かし人間総合研究センターのプロジェクト研究とも協働しながら世界を舞台に活躍する研究者・実践家を養成しています。

「8領域+1コース」の学際性と実践力

人間科学部の3学科を基盤とする8つの研究領域および1年制の「教育臨床コース」のいずれかに所属しながら、それらを横断する多彩な講義科目や演習を幅広く履修し、人間総合科学の全体像を学際的に把握したうえで専門的な研究を深めます。また、海外を含む学外でのフィールド調査・実習の機会も数多く設けられています。

国際社会が求める研究者・実践家を養成

人文・社会・自然科学が相互に浸透する総合科学としての人間科学は、現代社会や人間を取り巻く多様な問題を解決するうえで不可欠の学問領域です。わが国でこれを牽引する立場にある当研究科は、高い専門性と広い学際性を背景に、世界と時代が求める要請に対応できる柔軟性を備えた新しいタイプの研究者・実務家を養成します。

人間科学部

人間環境科学科

健康福祉科学科

人間情報科学科

- 地域・地球環境科学研究領域
- 人間行動・環境科学研究領域
- 文化・社会環境科学研究領域

- 健康・生命医科学研究領域
- 健康福祉科学研究領域
- 臨床心理学研究領域

- 修士課程1年制・教育臨床コース

- 感性認知情報システム研究領域
- 教育コミュニケーション情報科学研究領域

大学院 人間科学研究科

地域・地球環境科学研究領域

Regional and Global Environment Sciences

持続可能な社会構築をめざし 環境問題を学際的に解析する

持続可能な社会構築に向けて、地域・地球環境を自然科学および社会科学の分野から分析することを目的とします。自然科学分野では生態学、環境科学、動物行動生態学、水域環境学など、社会科学分野では環境社会学、環境経済学、人口社会学、地域資源論などの研究分野があります。また、自然と地域・地球社会との統合的な視座を大切に、国際的水準の研究・教育能力を有する研究者や実務家などの優秀な人材を養成します。

主な進路

大阪産業大学教員、テイジン、朝日新聞社、西島製作所、三菱商事、三菱UFJリサーチ・コンサルティング、日本放送協会、中日新聞、ジェーエムエーシステムズ、日立建機、科学技術振興機構、住友林業ホームテック



測定装置を操作して大気微量成分の自動連続観測を行っている様子

研究指導名	資格	担当教員名	修士	博士
極限環境生命科学	准教授	赤沼 哲史	●	○
環境社会学	教授	井上 真	●	○
水域環境学	教授	井内 美郎	●	×
生物圏生態学	教授	太田 俊二	●	○
地域資源論	教授	柏 雅之	●	○
人口社会学	教授	武田 尚子	●	○
森林環境科学	専任講師	平塚 基志	●	—
大気環境科学	教授	松本 淳	●	○
動物行動生態学	教授	三浦 慎悟	×	×
耕地環境科学	教授	横沢 正幸	●	○

「×」は募集しない、「—」は担当なしを示し、2018年度入試では募集しません。記載の内容は2017年4月1日時点の情報であり、変更が生じる場合があります。

人間行動・環境科学研究領域

Human Behavior and Environment Sciences

人間と環境のあるべき関係性を 心理学・建築学の双方から探究する

環境と人間の複雑多様な関係のあり方について、物理的、社会的、文化的環境を人間が創り出し、自ら創出した環境によって人間が形づくられるという双方向性に等しく注目し、その関係のあるべき姿について心理学および建築学を中核とした学際的な研究を行います。また、環境創造と人間の心理行動発達の相互規定的観点から、社会と連携する研究能力・問題解決能力を有し、グローバルな舞台上で活躍できる研究者・実務家を養成します。

主な進路

国家公務員、東京都職員、広島電鉄、自由学園、イー・コミュニケーションズ、福武書店、オリエンタルランド、竹中工務店、旭化成ホームズ、リクルート、野村リビングサポート、NTTドコモ、民間建築事務所、総務省消防研究センター、国立精神・神経医療研究センター、広島電鉄、マクロミル



【フィールド調査の例】高層建築物内にある保育所からの園児の避難訓練調査の様子

研究指導名	資格	担当教員名	修士	博士
建築環境学	教授	小島 隆矢	●	○
環境心理・環境デザイン	准教授	佐藤 将之	●	○
建築計画学	教授	佐野 友紀	●	○
発達動機づけ論	教授	外山 紀子	●	○
発達行動学	教授	根ヶ山 光一	●	○
社会文化心理学	教授	古山 宣洋	●	○

文化・社会環境科学研究領域

Cultural and Social Environment Sciences

今日の世界が抱える諸問題を 実地調査や文献研究により解明する

日本をはじめ、アジア、中東、欧州、北南米、アフリカなどを対象に、実践的なフィールドワークと文献研究を駆使しつつ、多様な文化と社会を解読する手法を教授します。そのうえで、社会科学、人文科学の諸領域を横断する学際的な研究を通じて、今日の世界が抱える複雑困難な諸問題の要因を明らかにし、多文化・多民族共生を前提とした持続可能な社会の構築に向けて、世界で活躍できる研究・教育能力を有する研究者や、専門的能力に秀でた実務家などの人材を育成することを目的とします。

主な進路

都道府県職員、野村総合研究所、東京都老人総合研究所、郵船クルーズ、全日本空輸、紀伊民報、東芝、プロダクション・アイジー、インテリジェンス、NTT、日本放送協会、国家公務員、文藝春秋、その他に海外留学(ハワイ大学など)



カタール・ニヤ地方の「人間の塔」調査研究

研究指導名	資格	担当教員名	修士	博士
家族社会学	教授	池岡 義孝	●	—
都市社会学	教授	臼井 恒夫	●	—
科学史・科学論	専任講師	加藤 茂生	●	—
歴史人類学	専任講師	里見 龍樹	●	—
都市人類学	准教授	竹中 宏子	●	○
アジア社会論	教授	店田 廣文	●	×
物質文化論	教授	谷川 章雄	●	○
表象文化論	准教授	中村 要	×	—
階級・階層論	教授	橋本 健二	●	○
開発人類学	准教授	原 知章	●	○
政治社会文化論	教授	村上 公子	●	—
移住論	教授	森本 豊富	●	○
技術文化論	准教授	余語 琢磨	●	—

「×」は募集しない、「—」は担当なしを示し、2018年度入試では募集しません。記載の内容は2017年4月1日時点の情報であり、変更が生じる場合があります。

健康・生命医科学研究領域

Health and Biomedical Sciences

生命医科学と健康科学の連携で 新たな研究領域の創出をめざす

健康科学と生命科学、および医科学を融合する教育および研究を行っています。教育面では、健康に関わる広範囲な専門知識を取得させることを目指し、修了後には、それらの知識を研究、教育、行政にかかわる仕事や社会活動に反映できる人材を育成します。研究面においては、生命現象の本質を分子生物学、生理学、神経科学等の立場から多角的に観察、解析を行います。特に人間の健康増進や生活の質の向上、および疾患の一次予防を目指し、人間科学に根ざした健康・生命医科学研究分野の確立を目標とします。国際的に通用する研究者の集団を形成するとともに、常に社会還元を意識した研究を継続します。

主な進路

東京女子医科大学教員、東京大学医科学研究所研究員、ハーバード大学医学部研究員、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、伊藤園研究所、国立成育医療センター研究所研究員、埼玉県立がんセンター、花王、リコーITソリューションズ、ヤマト科学



無菌状態での組織細胞の継代培養操作

研究指導名	資格	担当教員名	修士	博士
認知神経科学	教授	大須 理英子	●	○
健康管理医学	教授	河手 典彦	●	—
分子神経科学	教授	榊原 伸一	●	○
応用健康科学	教授	竹中 晃二	●	○
基礎老化学	教授	千葉 卓哉	●	○
医療人類学	教授	辻内 琢也	●	○
体温・体液生理学	教授	永島 計	●	○
細胞制御学	教授	原 太一	●	○

健康福祉科学研究領域

Social Welfare and Health Sciences

健康福祉科学の確立に貢献し 安心して暮らせる社会の実現をめざす

臨床死生学、バイオエシックス、社会保障政策、社会福祉、予防医科学といった学問領域を機能的に連携・融合させて、健康福祉に関わる諸課題の解決、平たく言えば「誰もが安心して暮らせる社会の実現」に寄与する学術的成果を社会に還元するとともに、世界に先駆けて「健康福祉科学」の確立に貢献することをめざします。文理融合型思考と関係するすべての人・組織と粘り強くコミュニケーションを取ることができるとともに、あらゆる領域で真に世界水準で活躍できる人材を育成します。

主な進路

厚生労働省、財務省、文部科学省、独立行政法人産業技術総合研究所研究員、早稲田大学教員、小樽商科大学教員、慶応義塾大学職員、東京都立高校教員、社会福祉協議会、三菱電機、国立障害者リハビリテーションセンター病院、日立、NEC



麻痺回復用の電気刺激装置「IVES(アイビス)」の試験の様子

研究指導名	資格	担当教員名	修士	博士
ソーシャルワーク論	准教授	岩崎 香	●	—
社会保障政策論	教授	植村 尚史	●	—
社会医学	教授	扇原 淳	●	○
緩和医療学・臨床死生学	教授	小野 充一	●	○
予防医科学・応用生理学	教授	掛山 正心	●	○
老年社会福祉学	教授	加瀬 裕子	●	○
福祉産業学	教授	可部 明克	●	—
児童家庭福祉論	教授	川名 はつ子	×	—
精神保健福祉論	教授	田中 英樹	×	×
子どもの健康福祉学	教授	前橋 明	●	○
健康福祉マネジメント論	准教授	松原 由美	●	—
リハビリテーション科学	教授	村岡 慶裕	●	○
バイオエシックス・生命の哲学	教授	森岡 正博	●	○
社会精神保健福祉学	教授	田中 英樹 <small>(筆頭担当)</small>	●	○
	教授	扇原 淳		
	教授	辻内 琢也		

「×」は募集しない、「—」は担当なしを示し、2018年度入試では募集しません。記載の内容は2017年4月1日時点の情報であり、変更が生じる場合があります。

臨床心理学研究領域

Clinical Psychology

研究と実践能力を兼ね備えた 臨床心理のプロフェッショナルを育成する

大きく変貌を遂げつつある現代社会において、心身の健康を維持増進し、しなやかに生き抜く方法論を提供するために、認知行動カウンセリング学、行動臨床心理学、学校カウンセリング学、医療心理学・職場メンタルヘルス学、心身医学、行動医学を中心に研究を展開します。そして、臨床心理学の基礎的な研究から実践的な研究を通じて、国際的水準の臨床心理学研究と心理臨床実践双方の能力を兼ね備えた人材を育成します。さらに、修士課程修了時には臨床心理士試験の受験資格の取得を可能にします。

主な進路

スクールカウンセラー、教育相談所相談員、都道府県職員、市区町村職員、法務省職員、家庭裁判所調査官、病院カウンセラー、メンタルクリニックカウンセラー、高齢・障害者雇用支援機構職員、研究機関研究員、大学教員、企業(人事・メンタルヘルス・研修指導職)



心理相談室の面接の様子

研究指導名	資格	担当教員名	修士	博士
学校カウンセリング学	准教授	桂川 泰典	●	—
行動医学	教授	熊野 宏昭	●	○
行動臨床心理学	教授	嶋田 洋徳	●	○
医療心理学・職場メンタルヘルス学	教授	鈴木 伸一	●	○
認知行動カウンセリング学	教授	根建 金男	●	○
心身医学	教授	野村 忍	●	○
臨床発達心理学	特任教授	井原 成男	○	○ <small>1年次からのみ担当</small>
行動分析学	准教授	大月 友	○	○ <small>1年次からのみ担当</small>